

第 49 号

2023 年 2 月

発行者：NPO 法人 介護の家コスモス男山

〒614-8372 八幡市男山笹谷 4-2 D19-106

TEL：075-983-2737 FAX：075-983-2746

e-mail：kosumosuot@gol.com

ホームページ検索用語 ⇒「コスモス男山」

<https://kosumosuot.sakura.ne.jp/hp/>

## 「ヤングケアラー」という介護者

10 年以上前、私が高校の教員だった頃、「お手伝い」の域を越えて、重過ぎる責任や負担が継続的にかかっているのでは？と感じる子どもがいました。親のうつ状態や家事のために、たびたび学校を早退せざるを得ない生徒。小さい弟妹の面倒を見るだけでなく、夜、生活費も稼いで休みがちな生徒…。今でいう「ヤングケアラー」でした。

最近取り上げられるようになったヤングケアラーは、まだ法令上の定義はなく「本来大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている 18 歳未満の子ども」というような説明が一般的です。

2020 年から翌年にかけて、国がやっと、中・高生を対象にヤングケアラーの全国調査を実施。報告された実態は、衝撃的でした。

中・高生の 20 人に 1 人(クラスに 2 人)が家族のケアを担当。その半数がほぼ毎日、平日でも平均 4 時間弱、ケアに携わっていました。その結果、どれほどのことを子ども達が失い続けてきたか、少しは想像できます。むろん、ケアをする中で成長し、家族の役に立てることを誇りに思う子どももいます。が、家族のことだけに口外しにくいと感じ、孤立してきた子どもも少なくありません。何よりも社会全体がこうした存在に気づく必要があると思います。

教員時代、2 年続けてケアラー支援の先進地イギリスの小・中・高校を訪問したことがあります。ソーシャルワーカーや NPO の相談員等がどの学校にも在籍。子どもの悩みを聞いて、社会的・心理的側面から子どもと家族を支援していました。子どもを「人」として尊重し、予算を割く国。一方、公的教育予算が OECD で最低ランク、教育に金をかけない日本は、外からのミサイルによってではなく、内から自滅していくのではと危機感を抱いてしまいます。

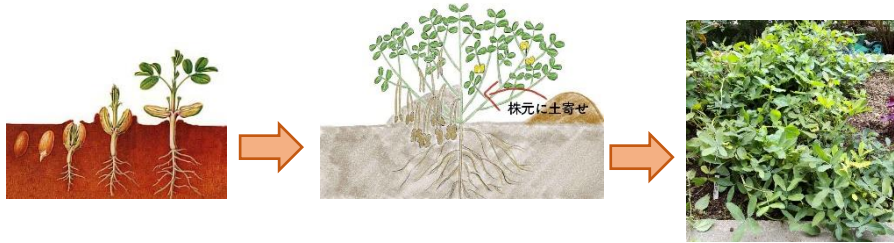


(厚生労働省のポスターより)

これからの介護政策は全世代にわたるケアラー支援を大きな柱として位置付けるべきだと思います。特に学校や地域、周囲の大人や介護事業所が、ヤングケアラーの存在に早く気づき、子どもの意思を確認しながら、サポートする体制を築いていかなければと思っています。

理事 萬田久美子

# コスモス アラカルト



## 落花生の収穫



2022年の初夏、調理担当の職員が、「コスモス農園」(実は調理室前の小さな花壇)に落花生の種をまきました。

毎日水やりをして丹精込めたおかげで、花が咲いて、その花が土に潜ると、秋に収穫の時を迎えました。

半信半疑で利用者さんたちが引っ張ると、ずるずると立派な落花生が出てきました。キレイに洗ってぐつぐつ茹でると、ゆでピーナッツの出来上がり。

感想「おっきいー」「あまーいー」でした。



## クリスマス会 in「コスモス男山」



2022年を締めくくる、コスモス男山恒例の「クリスマス会」。今回は12月生まれの方のお誕生日会をかねて、盛大に(?)行われました。

初めはお馴染みのハンドベルの迷演奏。「キラキラ星」「赤鼻のトナカイ」に「ジングルベル」。

次に登場したのは、ちょっと小柄な「欧陽菲菲(おーやんふいーふいー)」実は職員のスペシャルショー！利用者さんたちは、何が始まったのか目を白黒。



ラストは、昨年も登場した「マツケンサンバ隊」。熱狂的なファンの乱入に、芸達者な職員もタジタジ。

最後は、美味しいケーキをいただいて、満足、満足。



## 利用者さんのご家族の想い

2017年11月から利用頂いているKさんのご家族から、「コスモスだより」に想いを寄せていただきました。

心地よい！陽だまりのような楽園！アルツハイマー型重度認知症の妻がココにお世話になったのは2017年秋のことです。そのきっかけは2015年から通所していたデイサービス施設で日々攻撃的、狂暴な状態に…。とうとうアルツハイマー末期症状？かと、絶望的状況に陥り2017年に退所しました。これからどうしようかと途方に暮れ、「コスモス男山」前理事長に事実をありのまま伝え、ありがたいことに通所希望も叶いました。通所したその日から笑顔もみられました。

今年6年目に入りますが毎日が笑顔いっぱい、よく笑い(時々怒りモードも、笑)楽しく通所しています。「コスモス男山」の理事長、スタッフの皆様方は真のプロ集団です。理事長の思いを皆様が熟知し、日々研鑽、日々努力の結果です。今は、楽しい介護生活に変わり、感謝の日々に満ちています。いつも、関わってくださる皆様ありがとうございます！！

(K)



2018年5月からご利用頂いていた、Yさんが昨年8月にお亡くなりになりました。

職員一同心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Yさんの娘さんにお母さまへの想いを綴って頂きましたので、ここに紹介させていただきます。

(紙面の都合で、一部をカットさせて頂きました。)

「来世でも親子になろうな」

昨年八月に94歳で亡くなった母は、家事は勿論、和裁洋裁、手芸に活け花等なんでも完璧にこなす「主婦の鑑」であり、私の理想の女性でもあった。

そんな母が、大腿骨を骨折して要介護者になったのは、八年前の四月のこと。母はいつも前向きで「智子ちゃんの負担にならないように。」と懸命にリハビリに取り組み、歩行器を使って歩けるまでに回復し、その意思の強さには驚かされた。

認知症の症状が顕著になった四年半前に、コスモ様とのご縁を頂いてからも、私を気遣う気持ちは全く変わらず、「智子ちゃんが仕事に行けるように、私はコスモスで頑張る。」と言って、週5日殆ど休むことなく、亡くなる一週間前までデイトに通ってくれた。

母と二人、互いに励まし合って過ごした介護の日々。辛く苦しい時もあったが、全ての時間が私にとっては宝物となった。

「あなたを残して逝くのはつらいけど、私はあなたの心の中で生きているから、しっかり生きるんやで。来世でも親子になろうな。」そう言い残して二日後、母は静かに旅立った。

(Y)

## コスモス男山のキッチンから

こんにちは



『コスモス男山では、創設以来、『食』を大切にしてきました。安全で栄養価が高くおいしい食事を召し上がっていただこうと、献立に添って、調理担当の4人が毎日工夫を凝らしています。その工夫や思いを直撃インタビューしました。』

日々の学びがあります。会話の中からお口の状態を知り、調理に携わる。身体だけでなく食より介護を知りました。

寒いときは温かい料理(茶碗蒸し、粕汁)、暑い時はのど越しの良いものを。そして季節の野菜を色々形態を変えて調理する。調理する時は何より利用者皆様の顔を思い浮かべていますね。

利用者さんの会話より、こっそりヒントを頂き、メニューに加えることもあります。時々、「昔こんなの、食べたなあ」なんて話を聞かせて下さい。

栗林民恵（勤務歴12年 火・水・木担当 調理副主任）



コスモスに勤務するようになって、同じ八幡市に住んでいても知らなかった方々と出会うことが、嬉しいです。タンパク質をしっかり取っていたり、よく、又、野菜をたっぷり使って、食べやすくやわらかくするよう心がけています。季節を楽しんでいただきたくて、その季節の食材を取り入れる工夫もしています。おうちでも、緑黄色野菜を摂ることが少なくなりがちなので、人参やホウレンソウ、小松菜、トマトなどを一品でも使っていたら、と思います。

井村貴枝子（勤務歴6年、金曜担当）

ここまでよく務まったなあというのが実感です。会社を退職してすることがなくて、この事業所にたどりついたのですが、奥が深くても刺激をもらっています。スタッフが自分の親のように熱心に介護している姿を見て、目からうろこが落ちましたし、自分の老後のことも考え始めました。調理面では彩に気を付けて、食欲がわくようにと盛り付けをしています。日曜日の利用者さんは少ないのですが、「皆さん残さず食べられた。」と聞けるのが喜びです。

吉田 節（勤務歴11年、日曜担当）



野菜を豊富にとっていただくために、野菜料理は前日から考えていくことが多いです。栄養を考えて、皮もきんぴらにします。ショウガやはちみつ、香辛料等を使って、変化をつけたり食材の臭みを取ったりなどの工夫をしています。新しいレシピにも挑戦したくてスマホで調べてアレンジしています。



多くは田舎の母の料理をまねているものですが、利用者さんたちも喜んで食べて下さいます。食べることで繋がっている気がします。食べたいものがあれば、言って下さいね。

工藤昭子（勤務歴5年、月・土曜担当）

# コスモス文芸

寺紅葉 こつそり盗む 料理人  
 悲しみの 多き新聞 止めようか (かつら)

野の小春 シロツメ草の 四ツ葉かな  
 ストープに 足投げ出すや 猫乗り来 (かつら)

若さしか 知らない人の 寒卵  
 講師の 招き入れたる 雪女 (みやこ)

横顔に 懐かしき鼻 冬帽子  
 大気圏 てふ球体の 日向ぼこ (信)



「ぶあいそう」居酒屋鶴橋朝鮮人

口角泡飛ぶ 秋の夕暮れ

死の影がこんな近くにちらちらと

忘れていたよ彼岸花 (海)

## 活動日誌 10月～1月

10月 1日 コスモスだより第48号発行

10月 1日 介護職員処遇改善交付金支給 (前期)

10月 15日 サービス評価 自己評価会議

11月 28日 「介護の機能分化」研修 人材サポートセンター Web 1名

11月 3日 秋の散策 (枚方市民の森)

11月 4日 物価高騰支援一時金支給

11月 18日 非常用電源説明会 Web 2名

11月 21日 第4回運営推進会議

11月 21日 22日 認知症対応型サービス事業開設者研修 1名

11月 25日 八幡支援学校生徒 見学 1名

11月 25日 食品衛生管理者講習 1名

12月 25日 地域交響プロジェクト第3回会議 Web 1名

12月 1日 冬季賞与支給

12月 21日 クリスマス会

1月 11日 第4回定例理事会

1月 11日 11日 2月4日 コロナウイルス抗原検査 (週2回)

1月 16日 第5回運営推進会議

### 今後の活動予定

2月 1日 コスモスだより第49号発行

2月 9日 福祉送迎運転者講習 2名

3月 13日 14日 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 1名

3月 1日 介護職員処遇改善交付金支給 (後期)

書名	著者	発行所
朱色の化身	塩田武士	講談社
僕が本当に好きな和食	笠原将弘	主婦の友社
原発プロパガンダ	本間龍	岩波新書
国家の道順	柳美里	河出書房
私の盲端	朝日奈秋	朝日新聞出版
京都文学人景	大石直紀	光文社
幸村を討て	今村翔吾	中央公論新社
食卓のない家	円地文子	中公文庫
夜の谷を行く	桐野夏生	文藝春秋
マンモスの抜け殻	相場英雄	文藝春秋
ソ連兵へ差し出された娘たち	平井美帆	集英社
絞め殺しの樹	河崎秋子	小学館
ヨーロッパ史入門	池上俊一	岩波ジュニア
中野重治と朝鮮問題	廣瀬陽一	青弓社
黛家の兄弟	砂原浩太郎	講談社

☆ご寄付・ご寄贈いただきました

- ・ ふきよせさんより捨て布、衣類を
- ・ 多くの方から菓子類を
- ・ 匿名さんより寄付金 15,000 円を

ありがとう  
ございました。



12月中旬、神戸六甲アイランドに在る小磯良平美術館を訪ねる。「彼の休息」を観るために。

展示室内は静かで、神戸市立の小学5年生の児童たちが3年ぶりの課外授業中でした。30名が「彼の休息」の絵の前の床に三角座りし、学芸員の話を聴き時々の質問に児童たちが挙手し答える。私以外の観客も一緒に後方に立ち聞いていました。「作者の良平さんは1988年85歳で亡くなりました。1927年24歳の時、芸大卒業制作に親友の竹中郁(詩人)を描き最優秀となり話題となった作品です。親友の竹中郁とは十代に出会い生涯の友でした。」と説明があった。

「良平さんの作品には竹中さんが登場しますがなぜでしょう…?」

「親友を描いた良平さんの気持ちは?友とは?親友とは?」

小5の皆さんは真剣に友について考え、挙手し発言が続いた。11歳小5の皆さんに「彼の休息」は記憶されるでしょうか…。

50数年前私は「彼の休息」小磯良平の絵を上野美術館で観たときの印象が忘れられなかった。生涯の友であった竹中の赤、黒の縦縞のラグーシャツに白の半パンツ姿で横たわり寝息さえ伝わるような寝姿。作者の竹中郁への温かく穏やかな眼差しを感じた。

クリスマスの時季に絵に再会できた  
至福の時でした。

(三)

